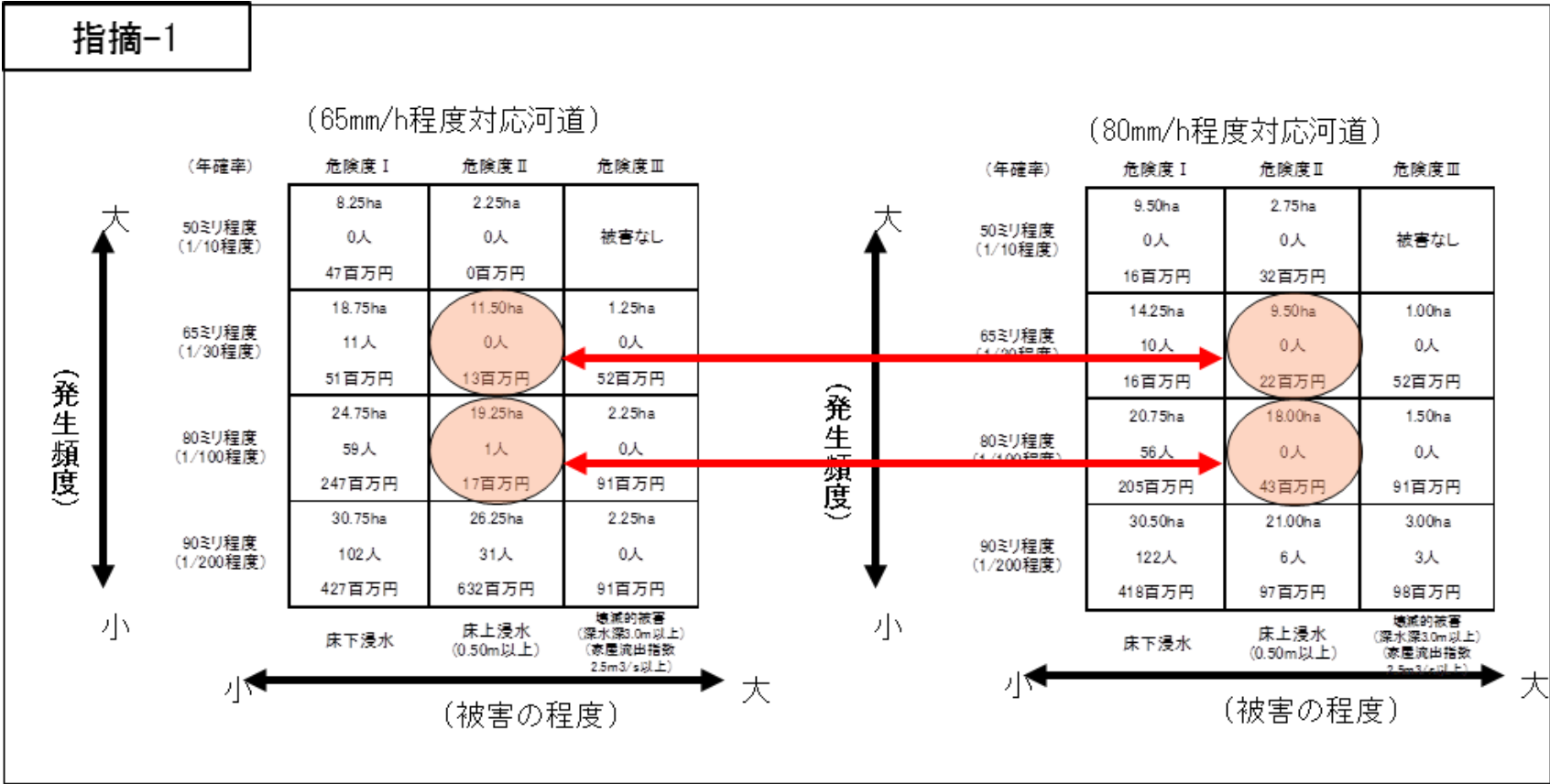


◆ 前回審議会での指摘事項

指摘-1： 65mm/h程度対応河道と80mm/h程度対応河道を比較すると、65ミリ程度、80ミリ程度の降雨により80mm/h程度対応河道で危険度Ⅱの被害額が増加しているのはなぜか。
【前回資料1-2 p.40】

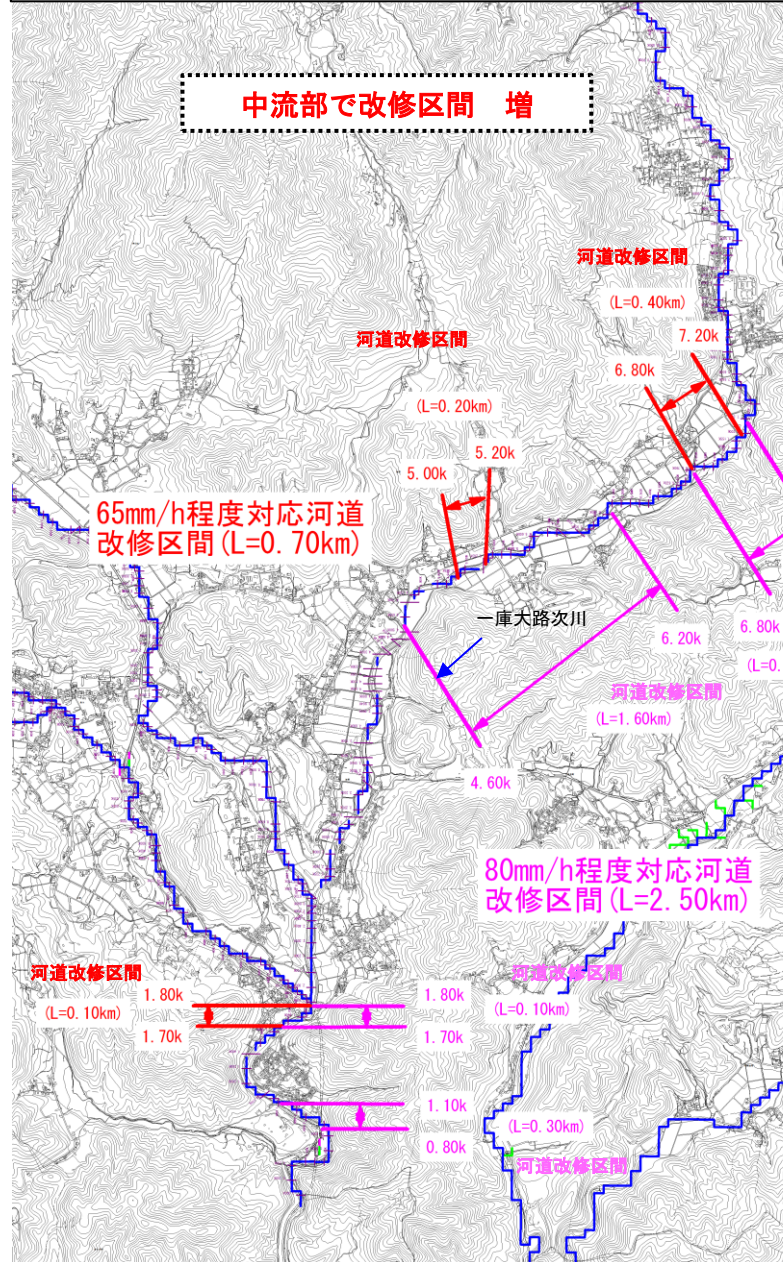


65mm/h、80mm/h程度対応河道
被害マトリックス
【前回資料1-2 p.40抜粋】

河道改修の概要

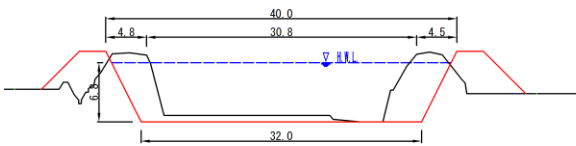


中流部で改修区間 増



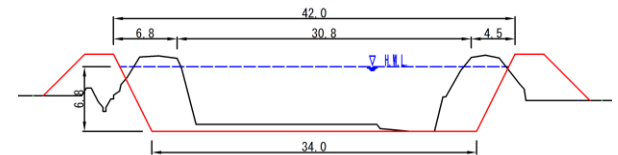
65mm/h程度対応河道 断面図

5.200k付近



80mm/h程度対応河道 断面図

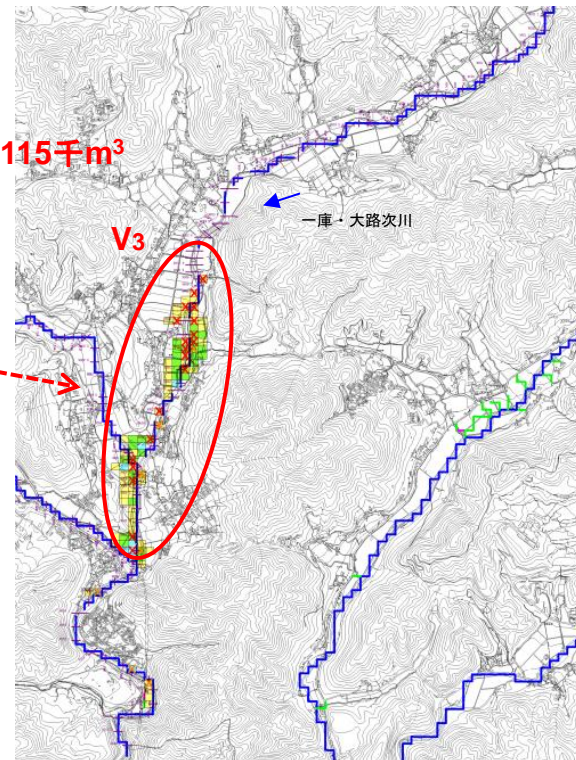
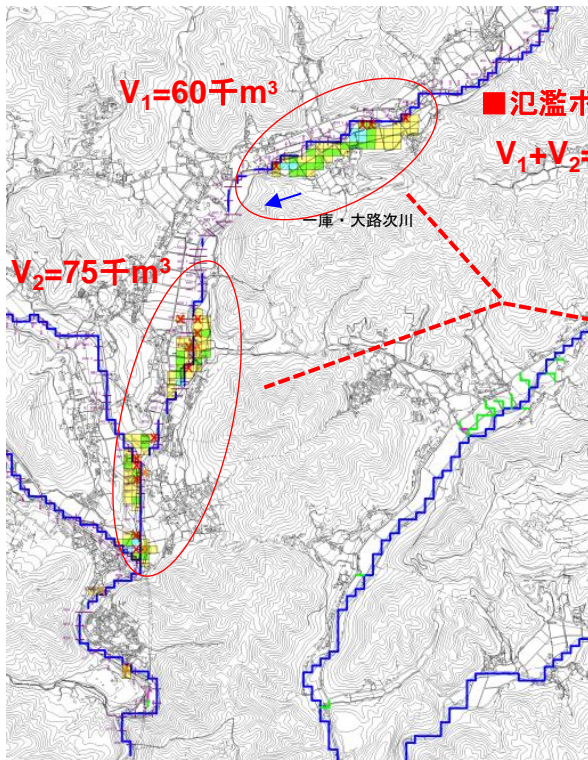
5.200k付近



- : 河道境界
- : 盛土
- : ボックスカルバート

■65mm/h程度対応後における
 氾濫解析結果：浸水深、対象雨量：65mm/h程度(1/30年)

■80mm/h程度対応後における
 氾濫解析結果：浸水深、対象雨量：65mm/h程度(1/30年)



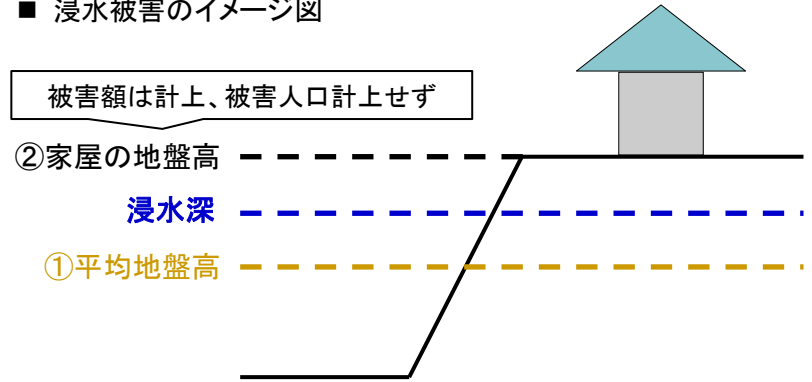
凡例(m)

- : ~ 0.5
- : 0.5 ~ 1.0
- : 1.0 ~ 2.0
- : 2.0 ~ 3.0
- : 3.0 ~ 4.0
- : 4.0 ~ 5.0
- : 5.0 ~

- × : 破堤地点
- × : 越流地点

※浸水範囲は被害最大となる破堤地点での破堤を想定したもの(越流氾濫を含む)

■ 浸水被害のイメージ図

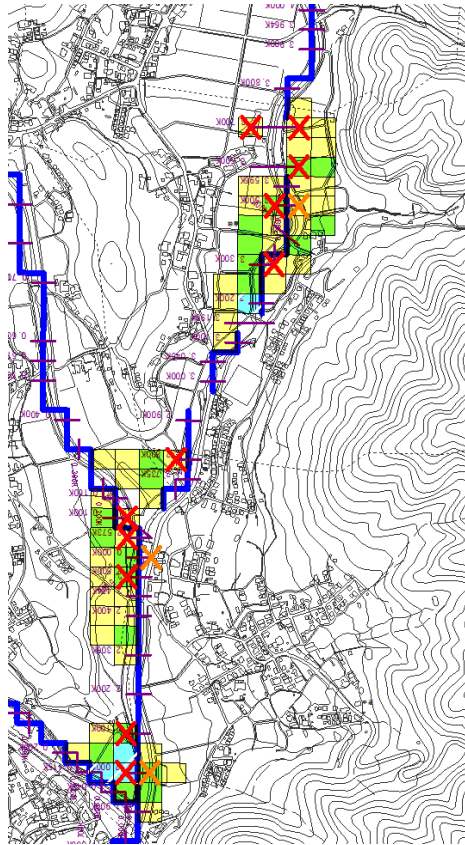


【浸水被害算出の考え方】

- ① 被害額については、浸水深が**平均地盤高さ**を上回る対象地の資産を計上。
- ② 被害人口については、浸水深が**家屋の地盤高さ**を上回る対象地の人口を計上。

下流部 (V2) 拡大図

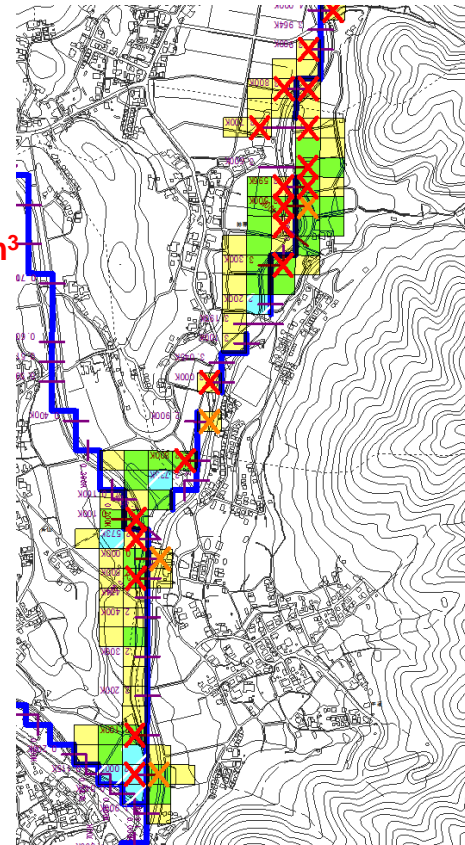
■ 65mm/h程度対応後における
 氾濫解析結果：浸水深、対象雨量：65mm/h程度(1/30年)



$$V_2=75\text{千m}^3 < V_3=115\text{千m}^3$$

下流部 (V3) 拡大図

■ 80mm/h程度対応後における
 氾濫解析結果：浸水深、対象雨量：65mm/h程度(1/30年)



凡例(m)

Yellow	: ~ 0.5
Light Green	: 0.5 ~ 1.0
Light Blue	: 1.0 ~ 2.0
Medium Blue	: 2.0 ~ 3.0
Dark Blue	: 3.0 ~ 4.0
Red with diagonal lines	: 4.0 ~ 5.0
Red	: 5.0 ~
Red 'X'	: 破堤地点
Orange 'X'	: 越流地点

【浸水被害の分析】

- 80ミリ対策案では中流部での浸水がなく、下流部における浸水範囲、浸水深が大きくなる。
- また、危険度Ⅱの浸水範囲において、家屋被害や家庭用品被害が発生しており、65ミリ対策案より被害額が大きくなる。
- なお、浸水深が家屋の地盤高を下回るため、被害人口は発生せず、河道改修区間の設定は行っていない。